

だれもが充実したいのちを燃やして生きることができるように!

私たちは地域・職域・学校など、
生活のいろいろな場面で
「健康寿命」をのばす運動を
実践しています。

よぼう医学

THE NEWS OF HEALTH SERVICE

2011(平成23)年9月15日 第456号

(財)東京都予防医学協会
(財)予防医学事業中央会東京都支部
発行人 北川照男・編集人 山内邦昭
発行所 〒162-8402
東京都新宿区市谷砂土原町1の2
保健会館 電話 03-3269-1131
http://www.yobouigaku-tokyo.or.jp

毎月15日発行



今月の主な紙面

- (1面) ●がん検診の精度管理
第19回日本がん検診・診断学会総会
- (2・3面(見開き))
 - 新連載 備えあれば憂いなし 第1回
 - 連載 産業医訪問 第87回
 - 連載 健康づくり・健康増進を支援するページ
働く若手! 応援シリーズ 第3回:保健師/
管理栄養士/健康運動指導士のコラム
- (4面) ●ピロリ菌の最新知見
第238回ヘルスケア研修会
 - 「東京都予防医学協会賞」PKU親の会で表彰
 - メンタルヘルス風土尺度「WIN」の活用と事例
第90回健康管理研究協議会例会
 - 大島町で乳がん検診を実施一中全会
 - お知らせ

がん検診の精度管理

第19回日本がん検診・診断学会総会

検診の質 正しく評価される体制を 受診者の利益・不利益も明確に

わが国のがん検診では、受診率が欧米諸国と比べて大幅に低いことが、大きな問題となっている。どんなに有効性の高い手法で検診を行っても、受診率が低ければ、がん検診の目的である「当該がんによる死亡を減らす」ことにならないからだ。さらに、もう一つ目的達成のために必要なこととして、がん検診を「正しく行う」ことが求められている。正しく行うとは、適切な精度管理に基づいた質の高い検診を行うことである。現在、国は受診率の向上策として無料クーポン券を用いたがん検診推進事業などを展開しているが、精度管理に関しては積極的な対策を打ち出せていない。こうした中、8月5日、6日の両日、愛知・名古屋で開催された第19回日本がん検診・診断学会総会(会長、遠藤登喜子名古屋医療センター部長)では、「検診の精度管理」をテーマに2つのシンポジウムが企画され、専門家による講演や討論が行われた。

総会では、がん検診の精度管理に関して、シンポジウム「検診従事者の教育」(座長、渡辺浜京都中央看護保健専門学校校長、金子昌弘日本CT検診学会理事長)と「利益と不利益を考慮した検診のあり方」(座長、大内憲明東北大学教授、遠藤登喜子会長)の2つが行われ、それぞれ4人の専門家が講演した。こうしたシンポジウムが企画された背景には、東京電力

福島第一原子力発電所の事故に関する報道の中で、放射線被ばくによる影響の物差しの一つとして医療被ばくが用いられ、がん検診の不利益面が強調されたことがある。「これからのがん検診は、受診者の利益と不利益を十分理解した上で、利益あるものを選択するという明確な考えの下に展開されるべきである」と、企画の意図について遠藤会長は語る。



マンモグラフィ症例検討会の模様・本会

だが、がん検診の精度管理と一口に言ってもその対象範囲は広い。「検診従事者の教育」で、座長の金子理事長は総論的な観点から、「精度管理には、企画・広報・検査・判定・報告・精検・治療などの多部門が関係している。このうち一部門だけの能力が突出しても全体の成績が上がることはない。逆に、一部門の能力が低下しても全体の成績は顕著に低下する」と述べ、各部門と精度管理の指標である「技術・体制的指標」「プロセス指標」「アウトカム指標」との関係などについて解説した。

また、「検診の利益と不利益を考慮した検診のあり方」で大阪府立成人病センターの中山富雄課長は、「肺がん検診に関する調査で、日本CT検診学会では、会員施設の約8割が低線量CTで撮影しているのに対し、人間ドック学会では、約3割しか低線量撮影が行われていない。診療で使う高線量のCT撮影は健康者に対して行われるべきではない」と述べ、早急には是正するよう訴えた。

国立がん研究センターがん予防・検診研究センターの齋藤博部長は、「効果の確立したがん検診では、死亡リスクの減少という、かけがえのない利益を受診者にもたらすが、その一方で、偽陽性や偽陰性などの不利益も必ず存在する」として、「精度管理の最も基本的な要件は、こうした不利益の最小化である」と述べた。

一方、筑波メディカルセンターの東野英利子部長は、乳がん検診における検診従事者教育をテーマに講演。マンモグラフィ検診で、医師や技師の能力向上を目的に行われている撮影技術講習会や読影講習会の現状について解説し、次のように述べた。

「このような講習会に加えて2007年からは、5年ごとの資格更新制を導入し、医師の読影傾向の修正や技師のスキルアップなどの機会を提供している。また、超音波検診従事者についても同様の講習会が始まっている。講習会では、内容を常に見直し、よりよい教育を行うようにすることが重要だ」

しかし、資格の取得や能力向上のための取り組みなど精度管理には経費もかかる。金沢医科大学の佐川元保教授は「今日では検診料金の価格破壊

個人情報の取扱いについて

日頃より、東京都予防医学協会の機関紙「よぼう医学」をご愛読くださりありがとうございます。本会では、現在「よぼう医学」を送付させていただいている皆様について、送付に必要な情報(名前、住所、所属、役職など)を送付名簿として保持しております。これらの個人情報の収集、保存、利用につきましては、本会の個人情報保護方針に基づき、厳重な管理のもとに運用しております。その上で今後も継続して送らせていただきたいと思います。送付名簿から削除を希望される場合には、お手数ですが、広報室(電話03-3269-1131)までご連絡ください。

健康管理相談をお引き受けします

当センターの会員が事業所、学校、各種団体の健康管理をアドバイスいたします。

担当:江幡良晴 三輪祐一

お問い合わせ・
ご相談は事務局まで
(予約制)

健康管理コンサルタントセンター
事務局 東京都新宿区市谷砂土原町1-2
(財)東京都予防医学協会
電話 03-3269-1141

送付先の変更・
中止について

送付先の住所変更・購読中止の場合には、変更内容を明記の上、本会広報室までお知らせください。

Eメール
thsa-koho@msj.biglobe.ne.jp
FAX 03-3269-7562

お電話(03-3269-1131)でも承っております。



備えあれば憂いなし

鷲崎 誠
東京地下鉄株式会社産業医



健康づくりを進める際に、何より重要となるのが予防です。その中でも、長年職場の健康管理に携わってこられた東京地下鉄の鷲崎誠産業医に、健康づくりに関する見解と「しかなポイント」や「予防策の秘訣」について執筆していただきます。

A型肝炎ワクチン

最近、A型肝炎はわが国では比較的まれな病気になっていきました。上下水道が普及し、A型肝炎ウイルスに曝されることなく一生を過ごすことも珍しくなくなっているからです。昔は子どもの頃に必ず感染し、終生免疫を獲得していましたが、しかも子どもの頃の感染は、症状は極めて軽く風邪程度の経過で、肝炎にかかったかどうかかわからないうちに治っていたのです。しかし、子どもの頃に免疫を獲得できなかった人が、大人になってからかかると、全気ですら、免疫のない日本人にとってかなりの地域に旅行した人、転勤したりすると、感染の確率も通常の100倍にもなります。そして、1カ月以上の上も入院が必要ほど重症になることもあります。しかも、中東、中南アメリカ、東南アジア、中国では、20歳までに人口の80%が罹患するといほどあり、予防の必要があります。

A型肝炎の治療法は安静と対症療法ですが、予防はワクチンを使用します。このワクチンはA型肝炎に感染する可能性のある地域へ出張を赴任される方は、出国前に企業側が費用を負担してワクチン接種をしていられることが多いです。これ、正しく「備えあれば憂いなし」です。

現在、神保さんは実家暮らしです。食事記録を一緒に見ると、朝と昼は仕事に関連する勉強をしながら、コンビニの卵サンドにおにぎりを野菜ジュースで流し込むように食べている。そうであるが、夜は帰宅後、外も担当して兼務し、禁煙を兼ねて、禁煙外来も担当しています。

喫煙対策で、09年から全館禁煙を開始し、1年前から社内禁煙治療と費用の会社補助も始めました。肥満対策では、先立健康管理センター、中徹先生による「はらすまダイエット」の講演会を開催、システムを導入し肥満対策を行っています。また、昨年11月「禁煙&ウォーキングキャンペーン」を半年間実施しました。目標達成者には報奨があり、この間は禁煙治療費が無料とあって8割以上の社員約2700人が参加しました。これらのキャンペーンの成果が出るのが楽しみです。

この他、社内でのインフルエンザワクチン接種、女性社員の乳がん、子宮がん検診や40歳以上の男性のPSA検診、健康診断の精検検査や経過観察検査受診の費用などもすべて会社が負担しています。当社では、社長をはじめ経営陣が「一人か何よりの財産を社員に大切にする」という考えから、働きやすい環境づくりに理解があり、手厚い安全衛生対策の取組が可能です。

また、社員の利便性を配慮し、S.C.Sクリニクという社内クリニックも同時期に開設され、健康診断と社員が気軽に受診できる環境づくりの大きな役割を果たしています。今後の課題としては、健康診断後の徹底での作業の省力化を含め、漏れのない総合的な健康管理システムの構築と導入を検討しています。

03年就任当初から生活習慣病予防に喫煙対策が重要と訴えていたが、08年までに8人が悪性腫瘍や脳血管障害、心臓血管病など重篤な生活習慣病に罹りました。7人が社員食堂が作られ、今後は、さらなるヘルシーメニューの充実を考えています。また、社員の利便性を配慮し、S.C.Sクリニクという社内クリニックも同時期に開設され、健康診断と社員が気軽に受診できる環境づくりの大きな役割を果たしています。

その結果、会社の賛同を得て、社員が気軽に受診できる環境づくりの大きな役割を果たしています。今後の課題としては、健康診断後の徹底での作業の省力化を含め、漏れのない総合的な健康管理システムの構築と導入を検討しています。



住商情報システム株式会社産業医

齊藤 礼郎 氏



私は、07年2月に東京慈恵会医科大学を卒業し、母校の第一内科講義の大学院に進学しました。当時の主任教授は肝臓病の権威の高橋雄教授で、医局も非常に大所帯で消化器の他に、循環器、神経、腎臓、代謝内科などの外来もありました。そのため入院患者も多岐にわたり、幅広く臨床経験を積むことができました。

その後、10年ほどで大学を辞めて、中央区にある京橋病院という個人病院で地域医療に従事しました。救急指定病院で、医師会の先生方から患者の紹介も多く、かなり忙しい毎日送っていました。そのうち、財団法人日本がん知識普及協会が、理事としての後事務理事として、また付属の東武町電気が、リクリニク副所長(その後所長)として、17年間ほど勤務しました。

その後は、さらなるヘルシーメニューの充実を考えています。また、社員の利便性を配慮し、S.C.Sクリニクという社内クリニックも同時期に開設され、健康診断と社員が気軽に受診できる環境づくりの大きな役割を果たしています。

その結果、会社の賛同を得て、社員が気軽に受診できる環境づくりの大きな役割を果たしています。今後の課題としては、健康診断後の徹底での作業の省力化を含め、漏れのない総合的な健康管理システムの構築と導入を検討しています。

その結果、会社の賛同を得て、社員が気軽に受診できる環境づくりの大きな役割を果たしています。今後の課題としては、健康診断後の徹底での作業の省力化を含め、漏れのない総合的な健康管理システムの構築と導入を検討しています。

その結果、会社の賛同を得て、社員が気軽に受診できる環境づくりの大きな役割を果たしています。今後の課題としては、健康診断後の徹底での作業の省力化を含め、漏れのない総合的な健康管理システムの構築と導入を検討しています。

その結果、会社の賛同を得て、社員が気軽に受診できる環境づくりの大きな役割を果たしています。今後の課題としては、健康診断後の徹底での作業の省力化を含め、漏れのない総合的な健康管理システムの構築と導入を検討しています。

その結果、会社の賛同を得て、社員が気軽に受診できる環境づくりの大きな役割を果たしています。今後の課題としては、健康診断後の徹底での作業の省力化を含め、漏れのない総合的な健康管理システムの構築と導入を検討しています。

あなたのやりたいこと、今取り組んでることは?

03年就任当初から生活習慣病予防に喫煙対策が重要と訴えていたが、08年までに8人が悪性腫瘍や脳血管障害、心臓血管病など重篤な生活習慣病に罹りました。7人が社員食堂が作られ、今後は、さらなるヘルシーメニューの充実を考えています。また、社員の利便性を配慮し、S.C.Sクリニクという社内クリニックも同時期に開設され、健康診断と社員が気軽に受診できる環境づくりの大きな役割を果たしています。

その結果、会社の賛同を得て、社員が気軽に受診できる環境づくりの大きな役割を果たしています。今後の課題としては、健康診断後の徹底での作業の省力化を含め、漏れのない総合的な健康管理システムの構築と導入を検討しています。

その結果、会社の賛同を得て、社員が気軽に受診できる環境づくりの大きな役割を果たしています。今後の課題としては、健康診断後の徹底での作業の省力化を含め、漏れのない総合的な健康管理システムの構築と導入を検討しています。

その結果、会社の賛同を得て、社員が気軽に受診できる環境づくりの大きな役割を果たしています。今後の課題としては、健康診断後の徹底での作業の省力化を含め、漏れのない総合的な健康管理システムの構築と導入を検討しています。

その結果、会社の賛同を得て、社員が気軽に受診できる環境づくりの大きな役割を果たしています。今後の課題としては、健康診断後の徹底での作業の省力化を含め、漏れのない総合的な健康管理システムの構築と導入を検討しています。

その結果、会社の賛同を得て、社員が気軽に受診できる環境づくりの大きな役割を果たしています。今後の課題としては、健康診断後の徹底での作業の省力化を含め、漏れのない総合的な健康管理システムの構築と導入を検討しています。

その結果、会社の賛同を得て、社員が気軽に受診できる環境づくりの大きな役割を果たしています。今後の課題としては、健康診断後の徹底での作業の省力化を含め、漏れのない総合的な健康管理システムの構築と導入を検討しています。

その結果、会社の賛同を得て、社員が気軽に受診できる環境づくりの大きな役割を果たしています。今後の課題としては、健康診断後の徹底での作業の省力化を含め、漏れのない総合的な健康管理システムの構築と導入を検討しています。



年に1度の職場の健康相談。神保さんは「大したことはないんですけど、いんですか?」と遠慮がちに入りました。神保さんは、就職して半年が経ち、だんだん業務を任せられるようになったとのこと。病院の受付窓口では専門的な知識を求められることもあり、なるべく先輩に頼らないよう勉強したり、患者さんへの対応に適切であつたかを尋ねたりして、がんばっています。ただ、帰宅してから仕事のことをなかなか頭から離れないように感じています。

「からだは疲れているのに、仕事のことをいろいろ考えてしまつて寝つけない。睡眠不足気味です。午後からはだるくて、力もたない。夏休みでリフレッシュできたと思つたのですが、仕事が始まるまで、ぼろぼろ寝てしまいます。お腹の調子も、ずっとよくなかないし、今日は健康相談ができる聞いて、来てみました。」

「聞いてみると、学生の頃からテスト前などで緊張する、下痢をしてしまつたことがあり、就職した後も、副菜も摂る。下痢が続いている時は、おなかゆるい。夜は、おなかゆるい。おなかゆるい。おなかゆるい。」

「仕事を病院の受付担当のため、立ちっぱなしで、緊張する。仕事の間、緊張する。仕事の間、緊張する。仕事の間、緊張する。」

「仕事を病院の受付担当のため、立ちっぱなしで、緊張する。仕事の間、緊張する。仕事の間、緊張する。仕事の間、緊張する。」

働く若手! 応援シリーズ 3

健康づくり・健康増進を支援するページ



穴原 静絵
本会健康増進部 保健師

「からだは疲れているのに、仕事のことをいろいろ考えてしまつて寝つけない。睡眠不足気味です。午後からはだるくて、力もたない。夏休みでリフレッシュできたと思つたのですが、仕事が始まるまで、ぼろぼろ寝てしまいます。お腹の調子も、ずっとよくなかないし、今日は健康相談ができる聞いて、来てみました。」

「聞いてみると、学生の頃からテスト前などで緊張する、下痢をしてしまつたことがあり、就職した後も、副菜も摂る。下痢が続いている時は、おなかゆるい。夜は、おなかゆるい。おなかゆるい。」

「仕事を病院の受付担当のため、立ちっぱなしで、緊張する。仕事の間、緊張する。仕事の間、緊張する。仕事の間、緊張する。」

「仕事を病院の受付担当のため、立ちっぱなしで、緊張する。仕事の間、緊張する。仕事の間、緊張する。仕事の間、緊張する。」

「仕事を病院の受付担当のため、立ちっぱなしで、緊張する。仕事の間、緊張する。仕事の間、緊張する。仕事の間、緊張する。」

仕事の緊張がとれない! がんばりやの神保さん



プロフィール
病院で受付を担当している神保さん(仮名)23歳。身長175cm、BMI19。患者さんと関わることが多く、医療制度についての質問やクレーム、病気の愚問まで聞くことも。真面目な性格で、一人ひとりの丁寧な対応を心がけ、親身になるあまり、ストレスを抱え込むこともあるようです。



山本 昌代
本会健康増進部 健康運動指導士

「仕事を病院の受付担当のため、立ちっぱなしで、緊張する。仕事の間、緊張する。仕事の間、緊張する。仕事の間、緊張する。」

「仕事を病院の受付担当のため、立ちっぱなしで、緊張する。仕事の間、緊張する。仕事の間、緊張する。仕事の間、緊張する。」

「仕事を病院の受付担当のため、立ちっぱなしで、緊張する。仕事の間、緊張する。仕事の間、緊張する。仕事の間、緊張する。」

「仕事を病院の受付担当のため、立ちっぱなしで、緊張する。仕事の間、緊張する。仕事の間、緊張する。仕事の間、緊張する。」



「仕事を病院の受付担当のため、立ちっぱなしで、緊張する。仕事の間、緊張する。仕事の間、緊張する。仕事の間、緊張する。」

「仕事を病院の受付担当のため、立ちっぱなしで、緊張する。仕事の間、緊張する。仕事の間、緊張する。仕事の間、緊張する。」

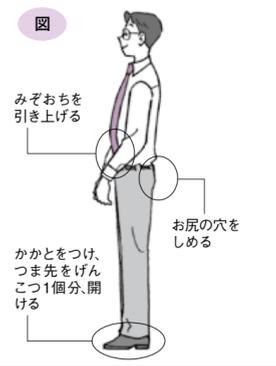
「仕事を病院の受付担当のため、立ちっぱなしで、緊張する。仕事の間、緊張する。仕事の間、緊張する。仕事の間、緊張する。」

「仕事を病院の受付担当のため、立ちっぱなしで、緊張する。仕事の間、緊張する。仕事の間、緊張する。仕事の間、緊張する。」

「仕事を病院の受付担当のため、立ちっぱなしで、緊張する。仕事の間、緊張する。仕事の間、緊張する。仕事の間、緊張する。」

相談を終えて

相談終了後、神保さんに書いてもらったアンケートを見てみると「体調がよくなるように、自分なりに対処していたつもりでしたが、やり方が間違っていることもあり、実行できそうなイメージができたので、簡単なことからやってみようと思います」と書かれていました。忙しい毎日の中で、健康相談は生活習慣を改めて振り返る機会となったようです。患者さんに親身に寄り添える神保さんなので、自分からの声にも耳を傾けることができるでしょう。来年は不調が改善されて、ますます楽しく働か見られそうです。





「東京都予防医学協会賞」PKU親の会で表彰

フェニルケトン尿症(PKU)は、先天性代謝異常症の一つで、血中のフェニルアラニンというアミノ酸が著しく高くなり、放置すると発達障害やけいれんなどの神経症状が出現する疾患である。

しかし、新生児期に発見して治療を行えば症状が予防できることから、本会では1974年からPKUを中心とする先天性代謝異常症の新生児スクリーニング検査を開始し、77年からは東京都の委託を受け、都内で出生した新生児の検査を行っている。

代謝異常が発見された子どもたちは、食事療法など適切な治療の継続で健康維持が可能だが、厳格な食事療法を続けるのは容易なことではなく、本人や家族の負担は決して小さくない。

本会では、長期にわたり食事療法を継続して、良好な健康状態を維持し、勉学に励み、社会で活躍している方々の努力を称え、今後の継続を祈念して、2007年に、新生児マス・スクリーニング30周年記念事業「東京都予防医学協会賞」を設立。毎年表彰

してきた。7月16日に開催された平成23年度PKU親の会関東総会では、今年度の受賞者3人と特別賞1人を表彰し、賞状と副賞、記念メダルを贈呈した。

今年の総会には、中国PKU連盟の代表9人が来賓として出席し、情報交換などの交流が図られた(写真)。今回の特別賞の1人は、同連盟から選ばれている。

また、東日本大震災の教訓を踏まえて、各家庭での特殊ミルクの備蓄の必要性や、災害時の連携の在り方などが確認された。

第238回 ヘルスケア研修会 ピロリ菌の最新知見

発がん活性の強いピロリ菌 積極的な除菌で胃がん予防を

胃がん予防が新たな局面を迎えている。胃潰瘍や胃炎の原因となるヘリコバクターピロリ菌(ピロリ菌)の慢性感染が胃がんの発症に関連していることが、昨今の研究で明らかになってきたためだ。こうした中、健康管理コンサルタントセンターと本会が主催する第238回ヘルスケア研修会では、7月13日、東京大学大学院医学系研究科の畠山昌則教授(写真)が「胃がんの原因としてのピロリ菌の最新知見―より胃がんを起しやすいピロリ菌って存在するの?」と題して講演を行った。



畠山昌則教授は、まず、世界の全がんに死者数のうち、胃がんによる死亡は約10%、70万人に上ると解説した。その上で、わが国は、毎年10万人が胃がんを診断され、5万人が死する「胃がんの多発国である」と指摘した。

また、胃がんや肝がん、子宮頸がんなど、全がんに死亡の25%近くを占める、感染を引き金として起るがんは、「いずれも感染微生物の駆逐で予防可能なのである」と強調した。

続いて、ピロリ菌と胃がんの因果関係を示唆する疫学調査の結果を紹介し、「ほぼすべての胃がんはピロリ菌の慢性感染で引き起こされる」とがわかってきた」と解説した。そして「ピロリ菌による代表的な疾患は潰瘍と胃炎であったが、近年の研究でこれに胃がんが加わってきた」と述べ、ピロリ菌の性質や特徴、ピロリ菌の持つ抗原という発がん物質と発がんのメカニズムなどについて、最新の知見を基に詳説した。

畠山教授は、ピロリ菌の感染率は約50%と、人類最大の細菌感染症であること、感染者のうち約20%に潰瘍が発症し、約10%に胃がんが発症することなどを解説して、次のように説いた。

「ピロリ菌と胃がん発症の関連が判明したからには、早期にピロリ菌を除菌し、駆逐していくことが大事だ」

ピロリ菌感染は、免疫力の十分でない幼少期に経口感染で成立。抗生物質で除菌しない限り、その感染は生涯にわたって持続する。

わが国の年代別のピロリ菌感染率は、20代、30代では20%と低いが、高齢になるにつれ高くなり、60代では約60%、70代では約70%に達する。これは、上下水道の未整備など、幼少期の衛生状態の影響と考えられる。

畠山教授は、ピロリ菌の感染経路や社会的背景などをこのように解説した上で、わが国の胃がん発症の動向について、「近未来的にはピロリ菌感染者の多い団塊世代が胃がんの好発年齢に入るため、胃がんの罹患率は増加し、その後数十年で自然に減少していくだろう」と推測した。

また、ピロリ菌の除菌は若い時ほど効果的だが、保菌率の高い中高年者の除菌は、医療経済的な観点からも重要であることに言及した。

最後に、畠山教授は、わが国に胃がんが多い要因として、「多くの日本人が持つ東アジア型のピロリ菌は、欧米型に比べ、CagAの発がん活性がより強い。この点が、日本をはじめとする東アジアでの胃がん多発の重要な要素と考えられる」と述べ、講演を締めくくった。



乳がんによる女性の死亡は年々増加傾向にある。一方、乳がんは早期に発見・治療を行うことで、約90%が治るとされている。そのため、がん検診を実施(写真)。6月24日から28日までの5日間で、住民330人が受診した。大島町でMMGによる乳がん検診が行われるのは、昨年度に引き続き2回目。それまでは超音波検査と視触診による乳がん検診であった。

受診者は昨年に比べ増加し、住民の乳がん検診に対する意識の高まりが感じられた。

本会では、今後も島しょ地区での乳がん検診に協力していく予定である。

大島町で乳がん検診を実施

職場におけるメンタルヘルス対策は、メンタル疾患の早期発見・早期治療や復職支援が中心になりがちだが、近年では、疾病の発症を防ぐ1次予防に取り組む事業所も増えてきている。

しかし、職業性ストレス簡易調査などでストレス調査を実施しても、その結果が疾病の発症予防のための組織的な

第90回健康管理研究協議会例会 メンタルヘルス風土尺度「WIN」の活用と事例

職場改善に至っていないことも少なくない。

こうした中、6月30日、東京・千代田区で開催された第90回健康管理研究協議会例会では、1次予防に役立つツールとされる、メンタルヘルス風土尺度「WIN」(WIN)を活用した職場改善をテーマに、講演や討論が行われた。

例会では、はじめに、WINを開発した産業医科大学産業生態学研究所の眞船浩介助教が講演を行った。

眞船助教は「WINは、①指示系統 ②滑らかな情報交換と意思疎通 ③労務管理(作業と健康に行き届く配慮) ④連携協力(連帯感・一体感ある組織力) ⑤研修機会(技能と意欲を伸ばす人材力)―この4つの風土から職場ごとの特徴を評価する調査票である。

この評価を用いて職場の全員が参加するディスカッションなどによるコミュニケーションを促し、職場環境改善の活動計画の立案へとつなげることでできる」と説明した。

次に、事例報告を行った三井化学の土肥誠太郎統括産業医は「当社では、職業性ストレス簡易調査とWINを併用している。WINでは問題のある職場だけでなく、快適職場の発見もできるので、そのよい点を社内報に掲載し、事業所全体へと周知した。社内からは「健康管理と言った不調を探す活動といった印象が強いが、職場のよい点も発見できるWINは、ポジティブでよい活動だ」という意見も寄せられ、一定の労働生産性の向上に役立ったと評価された」と語った。

第240回ヘルスケア研修会が11月30日(水)14時から16時まで、東京・千代田区の「星陵会館」で開かれる。

「健康への方策・減塩・体重管理・サプリメントに注目して」をテーマに、慶應義塾大学薬学部 柴崎敏昭 各員教授が講演する。

司会は本会の鶴田浩子 管理栄養士。

参加費2千円。定員先着400人。

お知らせ
第240回ヘルスケア研修会
健康への方策
減塩・体重管理・
サプリメントに注目して
11月30日(水) 14時~16時
東京千代田区「星陵会館」

従来のCAVI・ABIに加え、 末梢動脈疾患(PAD) 診断機能を強化!

血圧脈波検査装置(CAVI/ABI)
VaSera VS-1500Aシリーズ
医療機器承認番号: 22100BZX00762000



●TBI専用ユニット(ポンプ内蔵)で高性能を実現
新たに開発した足趾血圧ユニットTPU-15(ポンプ内蔵)により、脈波計測感度をあげることによってTBI計測精度を大幅に上げました。
*足趾血圧ユニット(TPU-15)を付属しないVS-1500AE/ANもあります。

●負荷ABI機能の追加
フクダ電子は独自のABI負荷装置VSL-100(オプション)を開発しました。更に負荷ABIの解析ソフトウェアを充実。